

## 平成29年度事業報告及び附属明細書

(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)

### 1. 事業概況

2017年の経済環境をみますと、先進国・新興国ともに成長を持続する世界同時好景気となり、「適温」と言う言葉が表すように金融市場では低金利下で株高が進む居心地の良い状態となりました。我が国経済も、潜在成長率を超える伸びを示し、為替相場の安定推移もあり、企業収益力が一段と回復し6年連続の株高となりました。一方、消費は回復傾向とはいえ盛り上がりには欠け、労働市場が逼迫するわりには賃金上昇も弱いなど、手放しでの楽観を許さない状況にあります。

このような経済状況の下、当財団の金融資産の運用益は為替が比較的安定して推移したことや配当の増加から、低金利下ながら前年を上回り、また賃貸住宅の事業収益も高い水準を保った結果、経常収益は、前年度比2,570千円多い96,294千円となりました。一方、経常費用は、助成金・寄付金の交付をやや抑えた結果、72,306千円と、前年度比4,848千円の減少となりました。

以上の結果、経常収支は前年度比7,418千円増加の23,988千円と高めの水準で着地しました。為替状況を厳しくみた期初

予算との関係では、経常収支は予算を約17百万円上回る好結果となりました。

金融資産の評価損益等は、保有株式の評価益を中心に133,344千円のプラスとなりました。以上のような経常収支及び金融資産の評価損益等を反映した、期末の正味財産残高合計は、2,618,848千円で、前年度比157,099千円の増加となりました。

このように、29年度の収益、財産状況は好調な経済環境を受けてまずまずのものとなりましたが、今後については、米国FRBによる利上げの動向、構造改革を進める中国経済の行方、さらに地政学上のリスク等のリスク要因が多々あることから、引き続き注意深く慎重な金融資産の運用に努めて参ります。

本会は2020年に創設100周年を迎えることから、記念の助成・寄付等の事業を予定しており、このための準備資金勘定を設け今年度より積立を開始しました。

## 2. 事業別内訳

### (1) 公益事業

今年度は、期初予算にて為替状況を主因に収益環境を厳しくみたことから助成、寄付活動を抑制気味に運営しました。助成・

寄付の対象分野については、引続き若者支援に重点を置き、自立支援ならびに児童ホスピス等の福祉活動への支援に注力しました。

助成金・寄付金の交付額は、社会事業分野に50件、15,028千円、学芸技術教育分野に8件、3,122千円、寄付に2件、2,000千円となり、助成金・寄付金合計では、60件、20,150千円で、前年度からは3,561千円減少しました。助成金等の明細は、後記Ⅱの通りです。

## (2) 収益事業

本会では、助成財源創出のために賃貸マンション（8戸）を保有しております。今年度も前年に続き高い稼働状況により賃貸収入はほぼ前年と同水準の17,378千円を確保しました。

## (3) その他

本会が松阪市に寄贈した原田二郎旧宅は、市の教育委員会による積極的な運営のもと松阪市の文化遺産として根付いてきており、本会も引続き記念展示品の提供などを通じて支援しております。原田二郎の生誕地である松阪の文化活動には、今後も地道な支援を行って参ります

以上